

ふるさと再発見！

vol. 15

ほろほわかやま

FREE

巻頭
特集

幾何学模様の先へ

—紀州高野組子細工—

歴史・文化

散策

施設紹介

I♥WAKAYAMA 私の和歌山

紀州備長炭

万葉の時代から湯見の浦と呼ばれた景勝地「加太」

国の名勝 琴ノ浦温泉山荘園

「はしもとブランド」を世界に



幾何学模様き か が く も よ うの 先へ

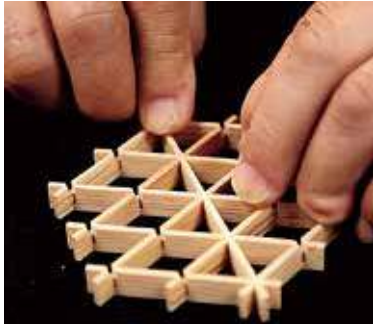
紀州高野組子細工—進化する伝統技法

釘や金具を一切使わず、手作業で幾何学模様を組み上げる。江戸時代、京都の組子職人が高野山に伝えた技術は、その山懷で発展を続け、やがて「紀州高野組子細工きしゅうこうやくみこざいく」と呼ばれるようになった。そして現在、新たな「型」の開発により、伝統の技はさらなる進化を遂げようとしている。

製作工程

工程 3

用意した部材を用いて、幾何学模様の枠を組み上げる。ここで組み上げた枠が、木片で絵を描くためのキャンバスとなる。



工程 1

高野六木の木材を一定のサイズの板に割る。さらに木材を切る道具「昇降版」を用い、板を目的の寸法に小割りする。



工程 4

キャンバスに絵を合わせ、材質や濃淡の異なる木片をひとつひとつ入れ込む。表現が固まれば、本組みしで完成。



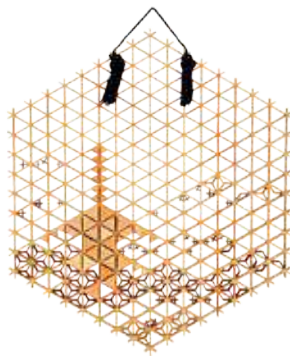
工程 2

自家製の型台で、組子細工のフレームである「クデ」の型を起こす。大枠となる部材と、幾何学模様を形成する部材を作る。



紀州の組子細工

組子細工は、鎌倉時代から伝わると思われる伝統技法で、細かく挽き割った木材を手作業で組み上げ、幾何学模様を作り出す。高野山に伝わったのは江戸時代で、寺院復興のために京都から招かれた職人たちが、高野の地にその技を持ち込んだという。



ひし形や三角形などの組み合わせで描く幾何学模様が特徴だが、高野の職人たちはそこに山形や波状表現をあしらいい、模様に変化をもたらし、主に日本家屋の欄間や書院障子ふすまの装飾として用いられ、最近では衝立や額、置

物などとしても注目されている。



高野六木を利用

中心として使用される木材は、樹齢三百年以上の高野六木（マツ、モミ、ツガ、スギ、ヒノキ、コウヤマキ）だ。材質として強く、光沢が良く、加工しやすい。「聖地・高野山のパワーを感じる」との職人の声もある。



郷土伝統工芸品に認定

平成22年（2010）には、和歌山県郷土伝統工芸品（知事指定）に認定された。江戸時代からの歴史に加え、新たな技法の導入で組子細工の独自性・芸術性が向上し、知名度が上がったことが認定のきっかけとなった。

その新たな技法とは、「きのくに・ちぎれはめ込め技法」。三本の薄い木材を正三角形に組み上げた枠の中に、材質や濃淡の異なるさらに細

かい木片を組み付ける。その枠の連なりで、人や風景などの絵柄を描くのである。元来の組子細工と比べ、独特の質感とダイナミックな色調を表現することができるという。

「きのくに・ちぎれはめ込め技法」は、非常に繊細な技法であるため、大作であれば、完成まで数年を要することもあり。反面、簡単な構図なら、誰もがパズルのように組み上げることができるという側面もある。新たな技法は、技の継承への新たな可能性も示していると言えるだろう。



きのくに・ちぎれはめ込め技法 広がる組子の世界

池田 秀峯 氏 紀州高野組子細工師（七代目）



風神雷神

俵屋宗達の「風神雷神図」を、ちぎれはめ込め技法で再現。紀州高野組子細工を後世に伝えていくために挑戦した。

組子細工の表現の幅を大きく広げる「きのくに・ちぎれはめ込め技法」。編み出したのは、紀州高野組子細工師（七代目）で、池田清吉建具二代目の池田秀峯さんだ。「伝統的な工芸品の価値に、アートの性を加えたい」と力を込める池田さん。伝統を継承しながら、組子細工の「今」を歩んでいる。



芸術品として

従来の組子細工は、あくまで建具の一部であり、職人がどれだけ工夫しても、その表現には限界があった。ちぎれはめ込め技法は、その状況を打破し、組子細工の芸術品としての価値を飛躍的に高めるものだった。

「ちぎれはめ込め」というネーミングは、枠の中に組み込む木片を、貼り絵に用いるちぎられた紙に例えたもの。木片の厚さは最小一ミリで、その木片を整然と配置することで、組子の質感と貼り絵のような色彩を兼ね備えた表現が可能となる。



代表作「風神雷神」

池田さんが制作した「風神雷神」は、その新技法を駆使した渾身の作だ。俵屋宗達たわらやそうたろうの傑作として名高い屏風画「風神雷神図」を、組子の幾何学模様と木片の色を組み合わせ



わせることで再現している。

天皇皇后両陛下が来県された際に献上した衝立「勇泳」（平成9年）も代表作のひとつだ。モチーフは大海を勇壮に泳ぐクジラで、ちぎれはめ込め技法ならではの質感を生かし、波とクジラの迫力を事に表現している。

このほか、高野山が世界遺産に登録された際の記念PR屏風（平成16年）や、九度山町の旧萱野家かやのに寄贈した障子欄間「高野八葉峰と大石順教尼おんきょう」（平成25年）など、芸術性の高い作品を次々と作り出



勇泳 (平成9年)

天皇皇后両陛下が来県された際に献上した衝立。県からの依頼を受けて制作した。モチーフは和歌山を代表する景物のひとつ、クジラである。



している。いずれも、ちぎれはめ込め技法でなければ実現できない繊細な表現が特徴である。



郷土の技を次代へ

「きのくに・ちぎれはめ込め技法」のもうひとつの魅力が、簡単な構図であれば誰でも組み上げられるということ。池田さんは地元の小中学生向けの組子細工教室を開催し、その楽しさやものづくりの充実感を伝えている。

「高野山をルーツとする技を子どもたちに教えることが、地場産業発展の一助になればと思っています。今は小中学生が対象ですが、将来は高校生にも体験してもらいたいですね。」と池田さんは話す。

伝統技術の継承、新技法の発展のためにも、まずは体験してもらうことが重要。旅行者が伝統産業を体験する県の「ほんまもん体験」や、観光客向けの体験教室などにも

積極的に取り組み、「伝える」活動に努めている。



高野の林業を守る

「私は子どもの頃から高野の山に抱かれて育ち、『木は友だち』と思ってきたので、建具の仕事は無理なく自分になじむものでした」と話す池田さん。感謝の気持ちが大きいからこそ、高野六木を使い続けることにも、池田さんのこだわりがある。それは地域の林業の繁栄に少しでも貢献したい、地域資源である高野

木を守っていききたいという思いだ。

「紀の国の豊かな自然は私たち住民の誇り。この豊かな自然を、次世代の子どもたちにも引き継いでいきたい」。その思いで突き進んできたからこそ、ちぎれはめ込め技法に出会えた、これまでの歩みを振り返った。

池田 秀峯 (いけだ しゅうほう)

昭和21年(1946)、橋本市生まれ。

池田清吉建具2代目。

29歳で組子細工の世界へ。

伝統の技に磨きをかけながら、「きのくに・ちぎれはめ込め技法」を開発。組子細工の表現の幅を広げた。

厚労省認定一級技能士。ものづくりマイスター。平成22年(2010)には、紀州高野組子細工が県郷土伝統工芸品に認定された。

【お問い合わせ】

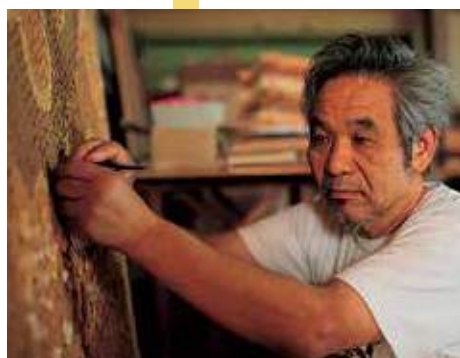
池田清吉建具

648-0072

和歌山県橋本市東家 2-3-22

電話：0736-32-8270

FAX：0736-32-0178





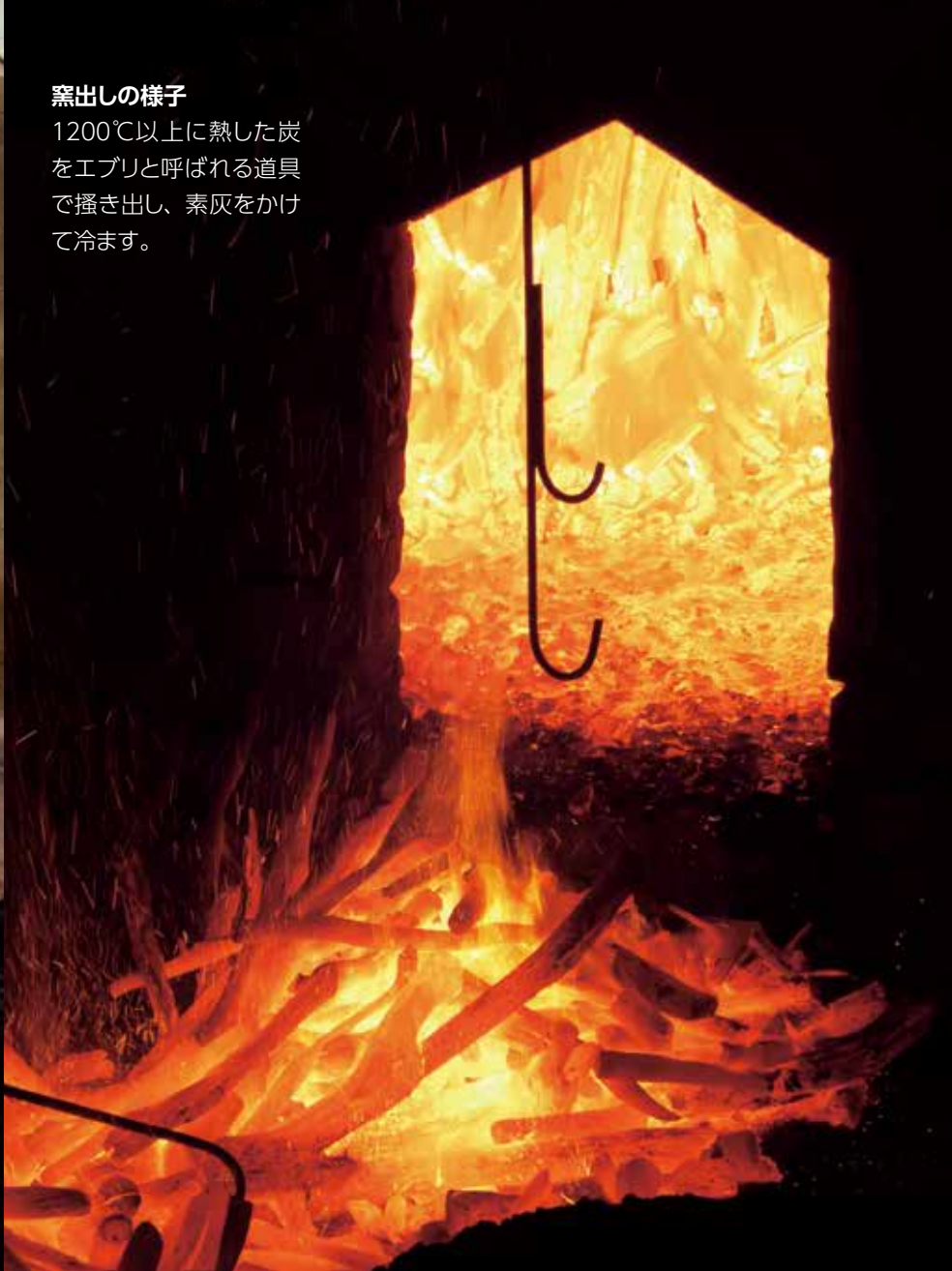
窯出しの様子

1200℃以上に熱した炭をエブリと呼ばれる道具で掻き出し、素灰をかけて冷ます。



窯の排煙孔

炭焼きはこの穴から出てくる煙の色や匂いで中の炭の様子を判断する。



炭焼きさんのくらし

紀州備長炭



白炭の最高級品といわれる備長炭。

中でも発祥の紀州備長炭は、製炭技術を和歌山県無形民俗文化財に指定され、代々受け継がれている。その歴史を振り返り、備長炭の今を追う。

炭作りのあゆみ

炭作りの歴史は長く、日本では愛知県の鹿ノ川洞窟遺跡から約30万年前の炭が発見されている。

当時は地面に穴を掘り、その穴に木材を積み重ね火をつけたあと土を掛けて蒸し焼きにする伏炭法で作られていたという。伏炭法で作られた炭

を和炭^{にすみ}というが、柔らかく、よい炭ができなかったため改良を重ね炭焼窯での炭作りが形作られていった。

炭焼窯で作られた炭は、その消火方法から黒炭と白炭の2種類に分けられる。

窯での炭化が終わった後、全ての穴を塞ぎ酸欠状態にして自然冷却したものを黒炭。炭化後少しづつ窯の口を広げ、

紀州の炭

紀州では炭の原木となるウ

バメガシ（樫の種類で特に堅い）の原生地であり、窯作りに適した赤土が豊富にあったことから、古くから炭作りが盛んに行われていた。江戸時代には庶民の食文化も栄え火持ちが良く煙の出ない白炭は重宝された、特に田辺地方で作られた田辺炭や熊野炭などは有名だったという。

この白炭作りの技法を日本に広めたのが遣唐使とともに中国に渡った空海ともいわれ、炭焼窯の排煙孔に通じる穴を大師穴というのはその名残とされる、平安時代には荘園の年貢としても炭が納められていた。



備長炭の原木ウバメガシ
和歌山県の県木に指定されている。
非常に硬く、身が詰まっているため枯れ木が水に沈む。



炭焼きに使われる道具

この炭を江戸に卸していたのが、田辺の炭間屋「備中屋長左衛門」で、その名から「備長炭」と呼ばれるようになった。製法が広く伝わったことで、今では硬い白炭全般に「備長炭」の名称が使われるよう

まず、山主から山を買い、斜面に窯を作り、そのそばに簡素な小屋を建てる。夏は非常に暑くなるため、窯出しなどの作業は夜に行い、冬は商品にならない炭を暖房に使用するなどして、一年を通して炭焼きは行われる。そうして木を切り尽くすと別の山へ移り炭焼きを再開する。

受け継がれる技術

炭焼きは輸送の手間がかかるため、ウバメガシの原生する山の中で行われてきた。

になった。和歌山県で作られる「備長炭」は「紀州備長炭」として区別される。



炭焼き小屋

ウバメガシの木は非常に生命力が強く、切ったあとからまた芽が出て木が生えてくるので20〜30年程でまた炭焼きに適した大きさにまで成長する。そこへまた

炭焼きがやってくる。

そうした山々には窯や小屋の跡が残っているので、それらを修復し繰り返し使われる。昔の炭焼きは家族全員で行うものだったという。子供たちは親の仕事を見てその技術を覚えていった。

和歌山県にはかつて6000人以上の炭焼きがいたが、昭和30年代の燃料革命以降、燃料としての木炭（黒炭）を焼くものはほとんどいなくなり、現在は180人程の炭焼きが備長炭の製作と伝承を行っている。

紀州備長炭発見館

開館時間：4〜11月 AM9:00〜PM5:00

12〜3月 AM9:00〜PM4:00

休館日：毎週水曜日・年末年始

住所：和歌山県田辺市秋津 1491-1

TEL: 0739-36-0226 FAX: 0739-36-8088

紀州備長炭の歴史や由来、世界の炭や復元した木炭車などの展示。施設内の炭焼き窯では研修制度によって炭焼き技術を伝承している。



万葉の時代から潟見の浦と呼ばれた

景勝地「加太」

「藻刈り舟 沖漕ぎ来らし 妹が島
形見の浦に 鶴翔る見ゆ」
四国への水陸交通の要所であり、廻船業者が多く、港町として栄えた加太。鯛の一本釣りなど、漁業の町としても繁栄し、重厚な商家の建物が見られる独特な町だ。



⑫加太海水浴場

瀬戸内海国立公園内にあるきれいな海は、遠浅で波の穏やかな海水浴場。



⑬常行寺

「ビャクシン」の大きな木が出迎える。和歌山県指定の天然記念物。樹齢約400年。



スタート

ゴール

加太駅

南海加太線

0 50m



⑤加太春日神社

昭和6年(1931)に国宝に指定され、戦後は国指定重要文化財として保存される。毎年5月に「えびまつり」が行われる。

③道しるべ

嘉永2年に建てられた。「右 和可山道」「左 あわしま道」と書かれている。



④キシモト

昔なつかしいあげパンの店。1コ80円。朝10時から販売で売り切れご免の人気店。



②中村邸

明治末期から大正初期に建てられ、昭和39年(1964)まで警察署として使われた。現在は、個人所有。



①南海加太駅

加太軽便鉄道が明治45年(1912)に開業。加太駅の始まり。平成26年(2014)11月より「加太さかな線」の愛称で呼ばれている。



南海加太駅を出発する。最初の目的地は**中村邸**（旧加太警察署）。壁が白く茶色い柱の洋館が、明治の雰囲気漂わせる。中村邸を過ぎ、少し歩くと、**道しるべ**（石の道標）に着く。「右和可山道」「左あわしま道」と書かれた道標は、嘉永2年から旅人の安全を見守っている。

分岐を東へと道幅はグッと狭くなり、車1台しか通れないほどになる。明治、大正の面影が残る町並みを、くねくねと曲がりながら行くと、2つ目の道しるべが現れる。「左阿王し満道」。この道は、かつて淡島街道として利用され、ここから人々は淡路島・四国へと渡っていた。道標を南東に曲れば、あげパンのキシモト、道向いが**加太春日神社**がある。御社殿は欄間・脇障子の彫刻が多く、豪華で桃山時代の特徴をあらわしている。

道なりに少し歩くと、提川に出る。河口に近く、小魚が泳いでいるのが道からも見える。川にかかる橋を渡ると、よむぎ餅 先田本家とよむぎ餅 小嶋商店、どちらも美味しいと評判のお店だ。そのまま、川に沿って漁師町の

風情を楽しみながら歩いていくと、**役行者堂**へと示す石碑があり、続いて117段の階段を登ることに。途中に**観音堂**があり、さらに登ると、役行者堂に着く。境内から友ヶ島や加太の町並みが見渡せる。

階段を下り東へ進むと、**淡島神社**の参道だ。その参道脇に三軒茶屋といわれる、お土産屋兼シーフード茶屋が三軒あり、その奥に淡嶋神社がある。御祭神は少彦名命。医薬の神様で、特に女性の病氣回復や安産・子授けなどに霊驗あらたかといわれる。

海岸沿いの道を歩けば、心地よい海風に足よりも軽やかになる。夏にはにぎわう**加太海水浴場**の美しい砂浜は、遠浅で波は穏やかだ。万葉の時代には、「潟見の浦」と詠まれた景勝地でもある。

海岸沿いの道から東へと細い路地へ入ると、**堂行寺**がある。県指定天然記念物のビヤクシンは、幹回り4.7m、樹令約400年と推定され、老樹特有のねじれが左に激しく渦巻く。自然が作り出した造形美と生命力の強さに心を打たれつつ、加太駅へと戻る。

海岸沿いの道から東へと細い路地へ入ると、**堂行寺**がある。県指定天然記念物のビヤクシンは、幹回り4.7m、樹令約400年と推定され、老樹特有のねじれが左に激しく渦巻く。自然が作り出した造形美と生命力の強さに心を打たれつつ、加太駅へと戻る。



11 加太鮮魚

⑪加太鮮魚

加太漁協直営の中卸し。とにかく新鮮な魚が一杯。屋市は毎月第1、3土曜日の11:00～12:30（1月は除く）に開催される。



⑧役行者堂

加太の港や友ヶ島が見渡せ、現在も毎年4月に聖護院門跡が大勢の山伏僧とともに正式参拝される。



⑦目薬井戸

役行者堂へ向かう途中に脇道にそれると民家が密集する中にひっそりと井戸があり、現在は使われていない。今から1000年以上前に役行者が造ったといわれている。

加太漁村センター

●友ヶ島汽船乗り場

小嶋商店

先田本家

淡嶋神社



⑩淡嶋神社

淡嶋神社系統の神社の総本社。針供養・雛流し・甘酒祭りが有名。



⑨三軒茶店

お土産屋兼シーフード茶店。屋市に行くと長い行列となる。



⑥観音堂

初午の月に厄年の人がお餅まきをして厄払いをする。



擬石や擬木がふんだんに使用され、池にはボラが跳ねる

名勝

琴ノ浦温泉山荘園

海南市北端の沿岸部にある国の名勝「琴ノ浦温泉山荘園」。国道に隣接しているとは思えない静かな場所ので、ゆったりとしたひと時を過ごしてみよう。

琴ノ浦温泉山荘園とは

ここは、明治21年（1888）に国産初の動力伝動用革ベルトを製作し、世界有数のベルト総合メーカーとなった新田帯革製造所（現ニッタ株式会社）の創業者・新田長次郎（1857～1936）の別邸庭園だ。

大正元年（1912）、長次郎は風光明媚なこの地を気に入り、周辺の土地を買い求めた。自らの指揮で、着工からほぼ完成する昭和初期まで20年近くの歳月をかけたという。

皇族や官界のほか著名人が多く訪れており、特に司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」の主人公の一人である秋山好古

は、長次郎とは同郷で年齢も近く、無二の親友として何度もこの地に滞在した。

「琴ノ浦温泉山荘園」の名称は、地名である「琴ノ浦」と長次郎の雅号「温泉」（愛媛県温泉郡山西村出身）が由来で、海軍元師の東郷平八郎によって名づけられた。

地域に親しまれた新田の別荘

最大時に約5万坪にも拡張した敷地は、戦後には開墾地や道路用地として一部を供出され、現在では自然博物館や公園・プールの用地としても提供されている。今でも約1万5千坪を有し、個人所有であった庭園としては日本で指

折りの広さを誇っている。

長次郎の死後は、昭和31年（1956）まで一般にも無料開放されていた。新田の別荘と呼ばれ親しんで、運動会や行楽に訪れた読者もいるだろう。貸しボートや遊具などがあった、いわば当時のレジャー施設だった。



新田長次郎翁像



著名人の扁額が掲げられた大広間

庭園の中央にある主屋は、

一見の価値がある。正面玄関が2階にある構造で、天井が高い開放的な座敷からは庭園が一望できる。室内の照明や座敷飾りなど、あらゆるところに技巧が凝らされており、どこを見ても飽きないのだ。

自然と人造物がおりなす景観美

庭園の池は海水を取り入れた「潮入式」で、ボラやガザミなどが生息している。

東側の庭園は、モルタルを用いて自然の岩や木に似せた擬石・擬木の技法が、飛び石や池の護岸などに多用されている。動物園や水族館、テーマパークなどで見慣れた技法



昨年末に修復工事が完了した浜座敷



満潮時には水没する沢渡り



- 1 十二支の石灯笼／側面に十二支が彫り込まれている。
- 2 ハート石灯笼／魔除けや招福の意味がある猪目(いのめ)と呼ばれるハート型のくり抜きがある。
- 3 マリア灯笼／隠れキリシタンが祈りを捧げるためにマリア像が彫り込んである。
- 4 大正硝子／ほとんどが建設当時のまま。ガラス越しの景色がゆらめいている。
- 5 兎の欄間／建設年の干支にちなんだ兎が波を駆ける。
〔作:相原雲楽〕 屋久杉に一刀彫されたダイナミックな作品。



幅2.2m、長さ9mの紀州青石でできた一枚岩の橋

だが大正時代には先駆的であり、長次郎は自ら試作を繰り返して庭園の造作に活かしたそう。

西側の庭園は、大ぶりの紀州青石や花崗岩が用いられた派手な造りだ。池の東岸は紀州青石を使用した石組みで、西岸は背後にある矢ノ島の自然岩盤がそのまま活用されていて対照的である。矢ノ島には海へと抜ける手掘りのトンネルが通されており、涼しい風を主屋に送り込んでいる。たくさん見どころがある温山荘園は見学のほかに貸室も可能で、茶会や同窓会、披露宴会場などにも利用できる。

最近では市民団体による地域活性化イベントの会場などに活用されることもあり、地域の文化財・名勝として今後どのように保存活用されていくのか注目したい場所である。読者の皆さんも、一度訪れてみてはいかがだろう。



七宝焼が施された襖の引手

料金受取人払郵便

和歌山中央局
承認

258

差出有効期限
平成28年3月
31日まで

郵便はがき

6 4 0 8 7 9 0

和歌山市市小路153-1
紀の川ビル2F

株式会社 ウイング
「ほうぼわかやまクイズ
& プレゼント」係



ふりがな					
お名前					
年齢	歳	性別	男	女	ご職業
ご住所	〒				
電話番号					
クイズの答え	1 ・ 2 ・ 3 ※あてはまるものを1つお選びください。				
本誌の入手場所					

※応募くださいました個人情報、プレゼントの発送及び弊社からのお知らせ以外には使用しません。



秋山好古の直筆「静者は安し」

公益財団法人 琴ノ浦温山荘園
和歌山県海南市船尾370 / TEL 073-482-0201
ホームページ / <http://www.onzanso.or.jp/>
開園時間：9:00～17:00 (入園は16:30まで)
入園料：大人400円、小中高生200円、幼児100円、シニア(65歳以上)300円
休園日：12月1日～2月末日および月曜日
(月曜日が祝祭日の場合は開園、翌火曜日が休園)
※主屋と茶室の見学は、要予約。車いすの貸し出し(無料)あり。

特産品のブランド化を推進

「はしもとブランド」を世界に

橋本市長 平木 哲朗

今号は橋本市ゆかりの紀州高野組子細工を特集していただきました。

橋本市には、この他にも柿や紀州へら竿、パイル織物など自慢の特産品がたくさんあります。



平木市長

柿は、ジュシーでやわらかい「平核無柿」や甘柿の王様「富有柿」が栽培されています。私も大好きで柿の季節が待ち遠しいです。紀州へら竿は、国の伝統的工芸品として指定されました。一本の高野竹から作られ、作業の一つひとつに職人芸がいかされたへら竿は、ヘラブリ釣り愛好家の間で羨望の竿として高い評価を得ています。

また、パイル織物は、日本一の生産、高品質を誇っています。肌触りがよく、摩擦にも強いのが特徴で、自動車のシートをはじめインテリア用品や寝具などに使われ、日常のさまざまな製品に溶け込んでいます。

橋本市には、他にも皆さまに知ってもらいたい産品や観光資源がたくさんあります。そんな橋本市の魅力をもっと全国へ発信していきたいと考えています。

そこで、橋本市マスコットキャラクター「はしぼ」と一緒に、これら地場産品や農産物、特産物のブランド化・販路開拓などを推進し、展示会や物産展を活用しながら、「はしもとブランド」のファンを増やしていきます。



はしぼ



パイル織物

編集後記

こんにちは、ほうばわかやまの15号をようやくみなさまのお手元に届けることができました。

今年、「高野山開創1200年」や「きのくに国体」等の大きなイベントが目白押しの和歌山ですね。そんな中、編集会議ではいろんな意見がぶつかり合いました。「やっぱりメジャー路線を企画として取り上げないわけにはいかないのではないか?」「ほうばらしさである『和歌山の隠れた良さを掘り起こすこと』に徹するべきだ」など。結局は、ほうばらしさが勝っている内容になっているのではないのでしょうか? みなさんはどのように思われましたか?

さて、今回から「I Love Wakayama」は、編集スタッフではなく、誌面で紹介させていただいた記事に関連のある外部の方に寄稿していただくことになりました。トップバッターは、橋本市の平木市長です。

特集としてご紹介した高野組子細工のふるさとである地域の首長ということでご登場いただきました。

これからも、地域のかなめとなる方々に登場していただき、和歌山の文化や歴史の素晴らしさを読者のみなさんと共有していきたいと存じます。末永くどうぞよろしくお願いいたします。<(_*)>

第15号編集長 岡 京子

お詫びと訂正

ほうばわかやま14号8頁で「奈良時代から飛鳥時代への過渡期」とあるのは「飛鳥時代から奈良時代への過渡期」の誤りでした。お詫びして訂正いたします



株式会社ウイング印刷物を中心に販売促進のお手伝いを専門とする会社で、「ほうばわかやま」の発行や本づくりを通じ、文字による地域文化の振興を目指しています。自費出版のご相談はウイングまで!
[沿革] 創業1972年。設立1981年。

facebook いいね!

「ほうばわかやま」発行について

和歌山の歴史・文化を掘り起こし郷土愛を育む一助になればと、弊社が自費で2008年から年2回発行している情報誌です。また、この活動を通して、郷土と社内の活性化の両立を図ることを目的としています。

ほうばわかやまのバックナンバーは弊社ホームページからダウンロードできます。

詳しくはウェブで検索→ <http://w-i-n-g.jp>

ウイング 和歌山

お問い合わせ先 ☎0120-136-700

協力機関

本誌を作成するにあたり、次の機関・団体にご協力をいただきました。
(順不同・敬称略)

橋本市 池田清吉建具 紀州備長炭発見館 (公財) 琴ノ浦温荘園

クイズとアンケートで 当たる!!

クイズにお答え頂いた方の中から抽選で
「組子体験セット」を 合計8名様にプレゼント!!

問題

紀州高野組子細工で主に
使用される木材は?

ヒント

本号のどこかに
答えが載っています

①高野六木 ②屋久杉 ③ベニヤ

Vol.14の答えは「②ベニヤ」でした。

応募方法

このハガキの各項目をご記入後、切り取って投函(切手は不要です)
もしくはメールにてご応募ください。 houbou@w-i-n-g.jp

メ切 2015年10月末日



本誌へのご意見・ご感想

ご協力ありがとうございました。